

オレンジカフェ静岡

3月のカフェを中止します

コロナウィルスのため、残念ですがカフェを中止いたします。SPACの永井健二さんのお話は、5月17日（日）に延期いたします。
栄養と睡眠をしっかりとって抵抗力をつけましょう。

認知症の相談
話し合い
情報交換ができます

今月のお話

すべての奇跡に驚き続けよう

永井健二さん 舞台俳優

(SPAC | 静岡県舞台芸術センター)

これは先日、僕が出演したSPACでの舞台『グリム童話〜少女と悪魔と風車小屋〜』で、僕が演じた「王様」が最後に言うセリフです。

日々の暮らしの中で、我々は、いろいろなことに慣れていってしまいがちです。太陽が出ていることも、庭の花が咲いていることも、新聞が配達されていることも、家族がいつも通りいることも、食事にありつかることも、友人と会話を交わすことも、布団に入って寝られることも、そこに特別な感動もない「日常のこと」となりがちです。

先日出演した『グリム童話』は、「手なし娘」という



永井健二さん

舞台俳優 グリム童話の王様
今年最初のSPACの公演で

話が題材で、悪魔のたくらみで両手を切り落とされてしまった少女が主人公です。その少女が王様と出会い結ばれるのですが、再び様々な困難にあうことになりまます。少女は、最後には王様と再会するのですが、その時、少女の手には新しく手が生えているのです。王様はそのことに驚くのですが、少女は「春になると森に新しい葉が生えるのと同じこと」と言い、「手が生えたことに驚くなら、葉が生えることにも驚くべき」と諭すのです。

「奇跡」とは、なにも、めったに起こらないような特別な現象だけを指すわけではありません。我々の周りのあらゆる現象や存在が、すでに「奇跡の産物」なのです。そう考えて、改めて日常生活を見つめてみると、日々の暮らしが少し違って見えてくると思います。

演劇には、そんな「ものごとの見方を変えるようなチカラ」もあるのです。

(二面に永井健二さんのプロフィールを掲載)

声のワークショップを中止します

恒例の 上藤美紀代による 声のワークショップ



先日、絵本専門士のお仲間「絵本の読み方」を指導いたしました（なんと偉そうに！）。出版関係者や書店経営者など、読むことを得意としない絵本専門士もいるのです。登場人物の声色を変える練習をしてみたところ「いろいろな声を出すことの面白さを知り、自分を明るい気持ちに保てるようにもなった！」と、とても喜ばれました。声で“遊んでみる”ことはお金のかからないストレス解消法！ 小さなお子さんに絵本を読んであげながら、ご自分の声をバラエティー豊かなものになさいますか？

今月は、声のワークショップが中止になって残念ですが、コロナウィルスが早く終息して、来月は皆さんと一緒に、声のトレーニングや合唱ができることを願っております。

コロナウィルスの感染に注意しましょう

- ・人混みに出かけないように
- ・外出時はマスクをしましょう
- ・手洗い、うがいをまめに
- ・栄養、睡眠を十分とって体力を
- ・水分補給を十分に

永井健二さんのプロフィール

永井健二さんの出身は岡山県倉敷市。中学校から大学まで部活は一貫して演劇部。大学で高の家庭科の教諭免許を取得されましたが、教師の道には進まず、2000年にSPAC（静岡県舞台芸術センター）に入団。出演作品に『夜叉ヶ池』『ロミオとジュリエット』『東海道四谷怪談』など多数あり、今年5月には駿府城公園で上演する『アンティゴネ』に出演されます。SPACは、22年前に創設された静岡県立の劇団で、グランシップにある静岡芸術劇場と日本平にある舞台芸術公園を本拠地にしながら、諸外国からも招かれて公演しています。

4月のミニ講話の予告

絵本 大人ならではの味わい

上藤美紀代さん 絵本専門士

今、世の中にはたくさんさんの絵本が溢れています。その中から、大人だからこそ心動かされ、しみじみと味わえるものを選び、皆さまと共に愉しめたら…と考えております。認知症をテーマにした本もご紹介いたします。

☆☆☆☆☆

上藤美紀代さんは、元SBSのアナウンサーで、当NPO法人の事務局長です。絵本専門士は取得が難しい国立青少年教育振興機構認定の資格です。

会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ HapiSpo

会場提供

社会福祉法人 静和会

主催 特定非営利活動法人
ヒューマン・ケア支援機構

連絡先 ☎ 090-5620-6070
✉ orange@npo-humancare.jp

※駐車場有ります

